



京都 在宅医療

検索

詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～

対象：医師・看護師

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

第2回「在宅看取りのための苦痛の緩和」

【とき】11月24日(日)10:00～12:00

【講師】早期緩和ケア大津秀一クリニック 院長 大津 秀一氏

第3回「在宅における摂食嚥下障害への対応」

【とき】2020年2月16日(日)10:00～13:00

【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長
オレンジほっとクリニック 地域連携型認知症疾患医療センター長
平原 佐斗司氏

京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～

対象：医師

※全回共通【ところ】京都府医師会館5階 京都府医療トレーニングセンター

第4回「知っておきたい！在宅での輸液スキル

～高齢者の肺炎・脱水時の対応について～

【とき】11月20日(水)14:30～16:30

【講師】洛和会音羽病院 総合内科・リウマチ部門 部長 谷口 洋貴氏
まつだ在宅クリニック 院長 松田 かがみ氏

第5回「知っておきたい！在宅医療での薬剤師との連携」

【とき】2020年2月19日(水)14:30～16:30

認知症対応力向上多職種協働研修(アドバンス研修)

対象：医師・多職種

綾部・福知山

【とき】11月30日(土)14:00～17:00

【ところ】ホテルロイヤルヒル福知山

【事例提示】大槻医院 院長 大槻 匠氏
西垣内科医院 院長 西垣 哲哉氏

かかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修)

対象：医師、医療関係職種、介護職員等

南部会場

【とき】2020年1月25日(土)14:00～17:30

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

【講師】北山病院 院長 澤田 親男氏
京都府立医科大学大学院 医学研究科
精神機能病態学 教授 成本 迅氏

※10月5日(土)に開催いたしましたかかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修)と同じ内容です。

かかりつけ医認知症対応力向上地域連携研修

対象：医師、医療関係職種、介護職員等

※定員50名を超えた場合は、伏見医師会員を優先いたします。

伏見

【とき】12月7日(土)14:00～17:30

【ところ】伏見医師会館

【講師】高安医院 院長 高安 聡氏
医仁会武田総合病院 副院長 神田 益太郎氏

認知症サポート医フォローアップ研修

対象：医師

南部会場

【とき】2020年3月28日(土)16:30～19:30

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

【講師】京都大学大学院医学研究科 准教授 谷向 仁氏
京都府立医科大学大学院 医学研究科
精神機能病態学 教授 成本 迅氏

生活機能向上研修 ※多職種で取り組む「食」と「排泄」支援に

対象：医師・多職種 ついての研修会です。

食支援 Part「地域の繋がりで進める食支援のかたち！」

【とき】2020年1月11日(土)14:30～16:30

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

【講師】まんのう町国民健康保険造田歯科診療所 所長(歯科医師) 木村 年秀氏
歯科衛生士 丸岡 三紗氏

排泄支援 Part「多職種で取り組む在宅における排尿自立支援のイロハ」

【とき】2020年2月8日(土)14:30～17:30

【ところ】京都府医師会館2階 211、212、213会議室 【講師】調整中

第10回 近畿在宅医療推進フォーラム

【在宅医療どないしはります?】

対象：一般の方及び医療・介護関係者等

【とき】11月30日(土)14:00～17:00

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

【総合同会】関医院内科循環器科 院長 關 透氏

第1部 基調講演「人生最期の幸福～今必要な死の準備教育～」

【講師】医療法人社団都会 理事長 渡辺 康介氏

第2部 在宅(笑)百科「在宅医療」のこんな時どうする!?を

みなさまとじっくり考えましょう!

【進行役】大阪北ホームケアクリニック 院長 白山 宏人氏

さくらいクリニック 院長 桜井 隆氏

京都府医師会「府民公開講座」

対象：京都府にお住まいの方

「百まで生きる覚悟 進む長寿化、家族変化の時代の生き方・備え方」

【とき】2020年1月26日(日)13:30～15:30

【ところ】京都府医師会館3階 310会議室

【講師】家族社会学者 春日 キスヨ氏

在宅医療に関係する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 32

2019年11月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。
※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Main menu

- ◆ 令和元年度 第2回 京都在宅医療戦略会議 報告(P2)
- ◆ 令和元年度 第2回 総合診療力向上講座 開催報告(P3)
- ◆ 令和元年度 第3回 総合診療力向上講座 開催報告(P3)
- ◆ 令和元年度 研修会予定のご案内(P4)
- ◆ <在宅医療あれこれ…>(P3)

令和元年度 第2回 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～ 開催報告

9月25日(水)、京都府医師会館にて、「知っておきたい！褥瘡の治療とケア～できてますか？貼付剤と軟膏の使い分け～」と題し開催、30名の医師が受講されました。



小川皮科医院
院長
小川 純己氏



まつだ在宅クリニック
院長
松田 かがみ氏



皮膚・排泄ケア
認定看護師
大城 繭子氏



実習の様子

● 受講者の声 ●

(受講後アンケートより抜粋)

- 難しかったけど勉強になりました。
- 最新の情報や、在宅での診療での創傷評価・適応薬剤・チーム医療についてお聞きできてよかったです。

令和元年度 第3回 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～ 開催報告

10月17日(木)、京都府医師会館にて「知っておきたい 在宅での輸液スキル」と題して、洛和会音羽病院 総合内科・リウマチ部門 部長 谷口 洋貴氏、まつだ在宅クリニック 院長 松田 かがみ氏、訪問看護認定看護師 勝本 孝子氏の3名にご講演いただき、29名の医師が受講されました。基礎講義の後は、訪問看護認定看護師がファシリテーターとなり、皮下点滴の実技演習を行いました。

本研修会は同じ内容で、11月20日(水) 14:30～16:30でも開催いたします。詳細は当センターホームページ又は京都医報をご覧ください。



洛和会音羽病院
総合内科・リウマチ部門 部長
谷口 洋貴氏



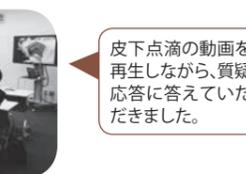
まつだ在宅クリニック
院長
松田 かがみ氏



訪問看護
認定看護師
勝本 孝子氏



皮下点滴実習の様子①



皮下点滴実習の様子②

皮下点滴の動画を再生しながら、質疑応答に答えていただきました。

● 受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

- 皮下投与が可能な薬剤が分かりました。
- 自分たちのやっていることの見直しができました。ありがとうございました。
- 請求(レセプト)のことも言及していただけて良かった。大変ありがとうございました。
- 手技を確認できたので良かった。

令和元年度 第2回 京都在宅医療戦略会議 報告

8月24日(土)に京都府医師会館にて第2回京都在宅医療戦略会議を開催し、地区医師会より24地区30名、その他、京都府、京都市、関係団体代表者等の計65名にご参加いただきました。

冒頭、北川府医副会長より、「病院の機能分化、再編を狙った地域医療構想が進行する中で、国より医師確保対策、外来の医療機能の問題、医師の働き方改革と、法改正も伴った改革が示されたが、京都府においては京都府地域包括ケア構想を策定し、地域の実情にそぐわない改革や急激な変化を伴った改革とならないように対応している」と説明。医療圏毎の地域医療構想調整会議では、医療者・地域住民などの現場目線を取り入れた地域の実状にあった議論ができるよう、関係機関と意見交換していきたいとの意向を示すとともに、議論の基礎資料とすべく、診療所A会員を対象に「これからの医療を考えるためのアンケート」を実施予定であることを説明し、アンケートの内容について意見交換が行われました。

議事内容は以下の通り。

◇議題

1.「地域医療構想調整会議の進捗状況・医師偏在・医師確保について」 京都府健康福祉部 医療課 課長 丸毛 信樹 氏

①平成30年度地域医療構想調整会議の進捗状況と今年度の予定について

平成30年度は各圏域において「各病院が担う機能及び今後の役割」「各団体から在宅医療等に係る役割と今後の期待」「医療・介護福祉連携による在宅医療等の充実」について議論し、各病院の機能、今後の役割等を共有できたことを報告。

今年度も、各地域医療構想調整会議を開催予定であり、在宅医療提供体制等の議論を進めたいとの意向を示した上で、各地区医に本会議への参加協力を要請した。

②医師偏在・医師確保について

平成30年7月の医療法及び医師法の一部改正について説明。都道府県における医師確保対策の実施体制の強化(医療法)と地域の外来医療機能の偏在・不足等への対応(医療法)関連で、医療計画に新たに「医師確保計画」及び「外来医療」に関する事項の記載が設けられ(平成31年4月1日施行)、今年度中に策定することが法律でも位置づけられたと述べた。

いずれも策定にあたり「医療対策協議会」で協議が進められるが、「外来医療」は在宅医療とも密接に関係しているため、地域医療構想調整会議において情報共有を行う意向を示した。

さらに、医師偏在指標の京都府内の状況については、「現場の肌感覚とあわないデータが試算されている」と指摘。

京都府として、医師偏在指標の課題を明示し、国へ要望書を提出したことを報告するとともに、「国の施策に縛られず、現状を十分に考慮した上で、医師確保計画等を策定していきたい」とした。

2.「これからの医療を考えるためのアンケート」の実施について

北川府医副会長より、府医の診療所A会員を対象としたアンケートの草案を示した上で、出席者と意見交換が行われた。修正後のアンケートを地区医会長へ参与会で案内後、実施することとなった。

3.「成年後見人の活動について」

●発表「京都弁護士会との後見の紹介制度について」

椎名法律事務所 弁護士 椎名 基晴 氏

成年後見について、(1)成年後見人の歴史、(2)成年後見制度の目的、(3)後見に関する制度、(4)家庭裁判所における法定後見申立ての概況、(5)後見に関する色々な疑問と、成年後見事務の開始から終了までの具体的内容、(6)市民後見人の概要、(7)成年後見人制度利用促進基本計画の項目に沿って説明。医療との連携については、判断能力の低下について医学的な判断があることで効率的に支援ができること、また家族が精神疾患を抱えているケースでも受診をきっかけに良くなること等を説明し、後見診断書の作成についても協力を呼びかけた。

●発表「成年後見人制度 多職種連携が活動を支える 事例を交えて」

上林里佳社会福祉士事務所 オフィス上林 社会福祉士 上林 里佳 氏

社会福祉士であるということと虐待やゴミ屋敷問題への対応なども行っている現状を説明するとともに、支援者から法定後見について質問される内容として、▽成年後見人が必要な場合の手続き、申立費用、後見人の報酬、▽申立後の流れ、結果がわかるまでの時間一などを説明。

医師に対しては、診断書の作成、本人に説明する際の協力、本人の状況と生活面も視野に入れた治療の選択肢の指示について協力を求めるとともに、疾患以外の問題があれば家族や支援者を交えて改善策を検討していただき、被後見人の医療同意については、本人意向を最大限引き出せるよう支援者とともに協議いただきたいと希望を述べた。

社会福祉士として、成年後見活動をしている中で感じている課題については、①必要な方の利用度が低い、②社会福祉士の知名度が低く、後見人の成り手も少ない、③社会福祉や介護、コーディネートには力を発揮するが、犯罪や債務などが関係する分野は弱い、④被後見人などの経済面での大変さがある一を挙げ、社会福祉士の知名度を高めるための様々な周知活動を行っている紹介された。

最後に、成年後見制度は強い法的権限と重責が伴うものであり、被後見人へ適切な法律事務を行うためには、成年後見制度の開始から終了まで、医師及び多職種の理解と連携が不可欠であるとして支援と協力を求めた。



椎名法律事務所 弁護士 椎名 基晴 氏



上林里佳社会福祉士事務所 オフィス上林 社会福祉士 上林 里佳 氏

令和元年度 第2回 総合診療力向上講座 開催報告

8月31日(土)、京都府医師会館にて「PCCM(患者中心の医療)とSDH(健康の社会的決定要因)徹底ガイド」と題し、天理よろづ相談所病院「憩の家」総合診療教育部 医員 感染症管理センター 医員 佐田 竜一氏にご講演いただき、126名(本会場:107名 北部会場:15名 南部会場:4名)の医師が受講されました。



天理よろづ相談所病院「憩の家」総合診療教育部 医員 感染症管理センター 医員 佐田 竜一氏



本会場の様子

●受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

- 日々何となくしていることを具体的に理論的にお話して頂いてよく理解でき、多めに勉強になりました。
- 診察室で患者との関わりに役立つお話が聴けました。
- 自分が経験的に行っていたことに裏付けがとれ、自信となった。

令和元年度 第3回 総合診療力向上講座 開催報告



洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 部長 上田 剛士 氏

9月21日(土)、京都府医師会館にて【一般内科医でもできる「めまい」の身体診察】と題し、洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 部長 上田 剛士氏にご講演いただき、197名(本会場:162名 北部会場:19名 南部会場:16名)の医師が受講されました。



●受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

- 理解しにくい内容を非常にわかりやすく教えて頂いて感謝します。
- 模型モデルを使用されて「聞いて学んでもらう」という講師の情熱を感じた。素晴らしいです。さすがドクターGです!
- これまで私にとってブラックボックスであっためまいを体系的に学べました。

専らの在宅のトレンドは施設における在宅です。施設入所の患者さんは介護度的にも医療の面でも入院される患者さんに負けない位、リスクを抱えてらっしゃるケースが多いです。紹介初診時にニコニコしているらっしゃる高齢のおじいちゃんおばあちゃんですが、とある日、電話で、「先生昨日から熱発しています」、「ここ2、3日食欲がないようです」、「転倒され入院されました」。これらが、典型的な施設管理者さんからの問い合わせ報告です。咳痰を伴う発熱、流感期の発熱ならば、往診対応も容易ではあるのだが、膠原病関連やFUOなどの素因や、元々胆石持ちであると認識しておれば、対処連携もスムーズではないか?紹介時に前医からの病状伝達できていれば、よりスピーディな対応が可能なのではないかと思っています。

特に高齢女性の場合も、散歩、栄養摂取、センサーマット、歩行器等施設

設内の転倒骨折予防策も大切に実施していただっていますが、ドクターサイドの骨強度チェックや生活リズム、睡眠衛生についても検討が必要ではあります。現在、問題となっているフレイルな高齢者をアウエーで効率よく管理するのが難しい状況にもあります。

認知レベルが低下していれば、ことさら、家族からの情報や同意も必要でしょうし、入所時の施設サマリーチェックや既往歴、画像診断などの紹介時・入所時のより多くの情報共有があれば、連携もスムーズにいくのではと思っています。患者さんが心底ニコニコ健康であればモチベーションもあがるでしょう。診療のたびに注意深い配慮やリスク管理も必要でしょう。

施設と医療機関という新たな医療連携の局面を迎えた時、今まで以上に、保険医療制度のサポートが益々充実されることを願っています。

在宅医療あれこれ

— vol.10 —

在宅医療の リスク管理と連携



安井 俊雄 氏
北丹医師会
安井医院 院長